

柵の木からの手紙

2024年 弥生 3月号



上写真の矢印の下に風車が見えている

5日： 啓蟄

10日： 新月 : 旧 2月 1日

11日： 東日本大震災

20日： 春分

25日： 満月 : 旧 2月 16日



【未来】2月6日、妻の都合で網走へ。待ち時間にちょっと足を延ばして能取岬へ行ってみました。予想通り、岬から7基の風車を見る事ができた。流氷の押し寄せたオホーツク海を挟んで常呂漁港から内陸に続く丘陵地に7基の風車が見えている。このところ、あちらこちらで風車のニュースを聞くようになった。一方、太陽光発電の施設の老朽化のニュースも聞こえてくる。良かれと考えて行っている事でも時が経つと状況が変わってくる。地球温暖化対策の為の2050年ゼロエミッションのひとつとして始まっている化石エネルギー中心の産業構造から炭素を排出しないクリーンエネルギー脱炭素社会への転換「GX」。

1年前の2月に閣議決定された「GX実現に向けた基本方針」。それは「エネルギー安定供給の確保としてのGX推進の為のエネルギー政策」とその実行実現の為の「成長志向型カーボンプライシング構想」（排出する炭素に価格を付けて、排出者の行動を変化させるための政策で炭素税や排出量取引などがある）。この先、オホーツク海沿岸の貴重な観光資源のひとつである「流氷」を見る事が出来なくなるといわれている。そしてその頃、従来あった産業が衰退し、国の後押しを得て新しい産業が台頭してくる…。2050年、ゼロカーボン達成まであと26年。



【過去】夕食で津別町あいおいの豆腐の容器？を目にして遠き日の感慨に浸る。

私が幼少のころ豆腐や納豆を自転車に積んでラッパを吹きながら行商する人たちが居た。ラッパの音が聞こえると行商の動きを予測して鍋を持って行商を呼び留める。ラッパの音色は豆腐屋なら「とーふ〜」と聞こえ、納豆屋なら声で「なっと、なっと〜」と売り歩いていた気がする。豆腐は鍋に入れてもらう。納豆はへぎで三角に包まれていたと思う。

当時は、総菜などは「へぎ」に包まれていた。

商店の販売形態自体が違う。総菜や魚や肉等はそれぞれ纏めてケースに入っていて、量り売りをしてへぎに包んで渡す。醤油等も樽から下栓を緩めて升に移して持参した瓶に入れてもらう。

この木の薄皮を一般的には「薄経木」という。私は、群馬の出身なので「へぎ」という呼び名で覚えている。社宅に住んでいた頃、前橋の私の家から200mもない所に「へぎ屋」というへぎを作る工場があった。「こうじょう」でなく「こうば」である。同じ漢字を書いてもこの施設の規模は感じられないが、このように書くと経営の様子を感じられると思う。そういう時代。

あれから60余年。現在ではポリ容器やビニール袋等で個別包装になっている。

2030年から40年頃には、今ある職業の8割程の職業が無くなるといわれています。

「技術革新」と「少子高齢化」・「人口減少」の急速な進展が引き起こす「新たな社会」の到来です。人類誕生時代から見ると「狩猟社会」・「農耕社会」・「工業社会」・「情報社会」そして「新たな社会」へと進展しています。

この職業・仕事が無くなって新しい仕事生まれる現場に私たちは、「薄経木」・「へぎ」を通じて立ち会っている訳です。

60年程前に普通にあった木材の「へぎ」の文化は無くなり石油製品の文化に取って代わった。そしてその代償に悩みながらも次の文化技術に対策を求めている。



【現在】微生物の活性による土壌改善・土中への炭素固定を目的に始めた有機JAS畑での越冬エン麦の栽培2年目。この冬は、水捌けを良くする為に秋の内に心土破碎をしてあります。2月24日、雪解け跡を見るとエン麦は既に枯れて地表を覆っています。

今年からこの畑では有機赤ピーツ1反程と津別町有機酪農研究会用の有機飼料としてイヤコーン（デントコーンの実の部分だけを収穫して飼料とし茎葉の部分は粉碎して畑に残してゆきます）を2町弱栽培します。

2000年から始まったこの畑での自然農法・有機JASの芋の栽培の仕事は無くなり新しい仕事としてのイヤコーンの仕事が始まる訳です。貴重な有機としてのこの畑が残る事、更に機会・チャンスがあれば有機圃場の拡大に繋がる為の作付の変更である事を内心願っています。